

開催館名 那須塩原市那須野が原博物館

企画展名 特別展「海の王者・海竜」

開催期間：2025 年 7 月 5 日（土）～2025 年 9 月 23 日（火・祝）



【企画展の内容・目的】

- 生命が誕生した約 40 億年前から現在に至るまで、海洋生物は繁栄と絶滅を繰り返してきた。その歴史を時系列で示すことにより、太古から絶えることなく受け継がれてきた生命と、それを育んできた海の重要性を認識していただく機会を提供することを目的とした。特に、中生代の海で繁栄し、その後絶滅した爬虫類「海竜」に焦点を当て、陸上で生活していた爬虫類が海の環境に適応する過程で獲得した形態や生態を中心に紹介した。
- 特別展の関連事業として、記念講演会やワークショップを開催し、海竜に関する詳細な情報や創作体験を通じて、海洋生物への理解を深める場を提供した。
- 化石の実物・複製標本に加えて復元画を展示し、古生物や古環境を視覚的にイメージしやすいよう配慮した。また、さわれる標本や QR コードによる一言解説を取り入れることで、年齢を問わず楽しみながら学べる工夫を行った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025年7月5日（土）～2025年9月23日（火・祝）

■開催場所：那須塩原市那須野が原博物館 エントランスホール・企画展示室

■入場者数：19,344人



那須塩原市那須野が原博物館 外観



特別展会場 入口



「PROLOGUE 恐竜時代」

特別展の導入として、爬虫類が中生代に陸・空・海などの多様な環境に進出・適応し、多くの系統に分岐したことを、化石や複製標本を用いて紹介した。あわせて、海竜（中生代に繁栄し絶滅した海生爬虫類）の位置づけを系統図で示した。

また、県内で発見された主な化石（アンモナイト）を展示し、当時の栃木県の環境や、将来的に大型化石が発見される可能性について解説した。

さらに、壁一面に設置した大きな復元画のタペストリーや復元模型を展示することで、海竜が繁栄した中生代の様子を来館者に強く印象付けるとともに、本章への導入として効果を上げた。





「CHAPTER1 王者の誕生」

先カンブリア時代から古生代にかけての海洋生物の進化の道のりを紹介した。約 40 億年前に生命が誕生して以降、光合成を行うシアノバクテリアの活動により大気中に酸素が供給されるようになった。その後、カンブリア大爆発によって複雑な形態をもつ生物が出現し、硬い骨格や複雑な眼をもつ無脊椎動物が繁栄した。さらに、顎や鰭を発達させた魚類が登場し、その一部である肉鰭類から両生類が進化し、脊椎動物として初めて陸上に進出した。展示では、ストロマトライトやアノマロカリスの化石、ウミサソリ類やダンクルオステウスの複製標本などを示し、古生代までの海洋生物の進化を俯瞰した。



「CHAPTER2 海亀あらわる」

中生代に爬虫類が地上から海に進出し、その後大型の捕食者として海の生態系の頂点に君臨するまでの、海洋環境への適応と進化の過程を紹介した。三畳紀には、魚竜類・タラットサウルス類・板歯類・パキプレウロサウルス類・ノトサウルス類などの海生爬虫類が次々に出現した。さらに、三畳紀の終わりには首長竜類が登場し、ジュラ紀から白亜紀にかけて最も多様なグループとなった。また、白亜紀後期には魚竜類と入れ替わるようにモササウルス類が進出し、急速に多様化した。展示では、全長 11 メートルを超える首長竜類タラソメドンや、代表的な魚竜類の一種であるステノプテリギウスの全身骨格標本を中心に、国内外の化石や複製標本を用いて紹介した。壁面には幅 9 メートルの大きな復元画のバナーを展示し、中生代の海の様子を実感できるようにした。また、同時期に繁栄した海洋生物の化石を展示し、当時の海の生態系について解説した。一部はハンズオン展示とし、化石を身近に感じられるよう工夫した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「CHAPTER3 海獣の進出」

白亜紀末に海竜が絶滅すると、空白となった生態的地位を埋めるように、陸上から哺乳類が新たに海へ進出した。海獣（海生哺乳類）は、海竜と同様に複数の系統から進化し、海洋環境に適応した。

展示では、スジイルカやゴマフアザラシなど現生種の骨格標本を用いて、それぞれの特徴や海竜との形態的な違いを紹介した。あわせて、栃木県内で産出した海獣の複製標本を示し、新第三紀における県内の環境について解説した。古生物に加えて現生種の標本を展示することで、太古から続く生命のつながりを感じられるよう工夫した。

また、キャラクターが特別展のポイントを痛快に語る「海竜海賊団のトレジャートーク」の表示を展示室内7か所に設置した。参加者がスマートフォンでQRコードを読み取る形式としたところ、宝探しのように表示を探し、ページにアクセスして楽しむ姿が見られた。

【来館者の声】

○回答内容 A

すごく昔から海には生き物が誕生していたことがわかった。

○回答内容 B

海竜の大きさから、海の大きさも感じる事ができた。想像だけだが、楽しい時間だった。

○回答内容 C

昔の海にはたくさんの海竜がいて、生きていて、今の私たちにつながっていることを感じました。

○回答内容 D

那須塩原と海とのつながりを感じることができました。

2. 関連事業の内容

■ワークショップ「化石のレプリカづくり」

【開催日時】2025年7月13日（日）・27日（日）・8月10日（日）・24日（日）・9月7日（日）・21日（日）

10:00～12:00、13:30～15:30

【開催場所】那須塩原市那須野が原博物館 エントランスホール

【参加者数】390人

【実施内容・目的】

- 海竜の一つであるモササウルス類の歯のレプリカ作りを通して、グループごとの歯の形態的な違いや食性について学び、モササウルス類の多様性を感じていただくことを目的とした。
- 化石が形成される過程やレプリカ作成の意義を説明することで、古生物研究の一端を体験する機会を提供した。



ワークショップ会場の全景



ワークショップの様子



古生物学の研究・展示・教育などに活用されるレプリカ作りを体験できるワークショップを実施した。実物の海竜（モササウルス類）の歯の化石から作成した型枠を用いてレプリカを制作した。制作時間の短縮を図るため、素材には低融点樹脂を使用した。ワークショップは1回20分、1日12回、6日間にわたり実施した。



様々なモササウルス類の歯の形状を比較し、その食性との関係について解説した。これにより、海竜とその捕食対象となる海洋生物の多様性について理解を深める機会を提供した。

【来館者の声】

- 回答内容A
化石のレプリカづくりが楽しかった。
- 回答内容B（海の学びに繋がるもの）
モササウルスの歯の特徴と食べ物のかかわりについて教えてもらいました。
多様な食べ物＝生物種の多様性。
- 回答内容C（海の学びに繋がるもの）
むかしの海からいまの海はつながっていることを感じた。

■記念講演会「海竜－恐竜時代の海の爬虫類－」

【開催日時】2025年7月26日（土） 13:30～15:30

【開催場所】那須塩原市那須野が原博物館 研修室

【参加者数】来場者 55 人・動画視聴者 45 人

【実施内容・目的】

- 講師として、日本における首長竜類研究の第一人者である佐藤たまき教授を招き、中生代に繁栄した海生爬虫類「海竜」について、国内外で発見された化石や最新の研究成果をもとに解説いただくことで、展示内容をより深く理解していただくことを目的とした。
- 講演会の様子をビデオ撮影し、後日申込者限定で動画を公開することで、参加機会の拡充を図った。



記念講演会会場の全景



記念講演会の様子



海竜と他の爬虫類との違いや系統関係、海竜の各グループの特徴、日本における海竜研究の現状と課題、さらに講師の専門であるフタバサウルスの記載経緯とその意義について、豊富なスライドを用いて解説いただいた。中生代において異なる系統の爬虫類がどのように海洋環境に適応し、繁栄を遂げたのかを学ぶとともに、現生の海洋生物について考察する貴重な機会となった。

8月9日から9月23日にかけて、YouTubeにて申込者限定で記念講演会の動画配信を行った。

【来館者の声】

○回答内容A

“泳ぐ”ことを生物が極めると、同じような形態になっていくんだと感じました。

○回答内容B

海でも、陸や空と同様には虫類が多様に進化したことを知り、興味深かったです。

○回答内容C

中生代の海に、海生爬虫類という生き物がいて本当にこんな生き物がいると感じられました。いいお話を聞けてうれしかったです。ありがとうございました。

【事業全体のまとめ】

特別展を通して、海竜をはじめとした海洋生物の適応と進化について、多くの方々に知っていただくことができた。また、現在は“海なし県”である栃木県がかつて海であったことや、県内で発見された海洋生物の化石を紹介することで、普段はあまり身近でない海とのかかわりを実感していただく機会となった。アンケートでは、全長 11 メートルのタラソメドンの全身骨格標本について、「迫力があった」「大きさに驚いた」といった感想のほか、「今いる動物が絶滅しないように、環境を守りたいと思いました」といった意見も多数寄せられた。

関連事業として、首長竜研究の第一人者を講師に迎えた記念講演会やワークショップを開催し、多くの方々に海竜をはじめとした海洋生物への理解を深めていただいた。

海の古生物をテーマとした展示および関連事業を通じて、現在の海の環境や生物について考察する機会を提供することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」	支援金のサポート。
2. 国立科学博物館	展示標本の借用。
3. 三重県総合博物館	展示標本の借用。
4. 群馬県立自然史博物館	展示標本の借用。
5. 栃木県立博物館	展示標本の借用。
6. 読売新聞大阪本社	復元画の使用。
7. 那須塩原市図書館 みるる	連携展示の実施。

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 下野新聞	「海なし県は昔“海”だった 那須野が原博物館で特別展」2025年7月15日
2. とちぎテレビ	「特別展「海の王者・海竜」開催 中生代の海にすむ巨大な爬虫類 那須野が原博物館」2025年8月12日
3. NHK 総合	「首長竜などの骨格標本や化石を展示する企画展 那須塩原」2025年9月3日
4. 号外 NET	「全長 11m を超える首長竜の全身骨が栃木県初展示。那須野が原博物館にて特別展「海の王者・海竜」開催中です！」2025年8月7日
5. 読売新聞	「「海竜」化石 太古の世界体感 那須塩原 実物や複製 126 点展示」2025年9月13日

以上